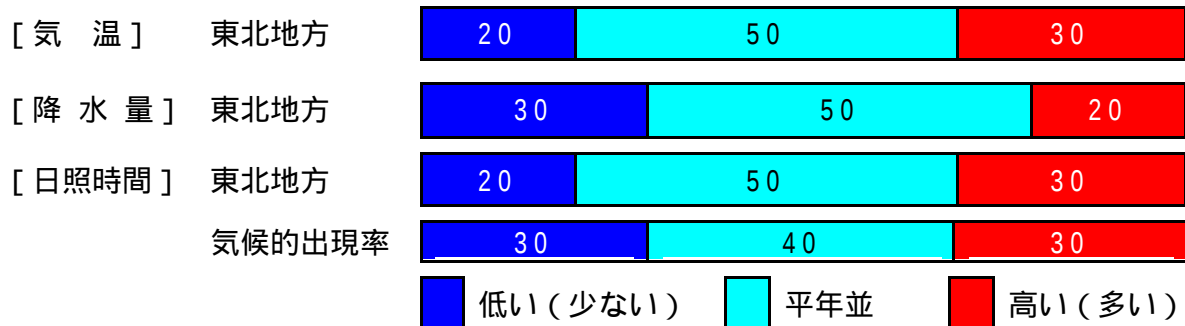


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：2 月 19 日～3 月 18 日）

平成 12 年 2 月 18 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「高い」で、その確率は 30％です。「低い」の確率は 20％と小さい。

[降 水 量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

* 東北日本海側の降雪量の予報は終了しました。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方は、期間の前半は冬型の気圧配置の日が多いでしょう。一時強い寒気が南下する見込みです。後半は高気圧と低気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。

この期間天気は、東北日本海側では平年同様曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年同様晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。平年の晴れ日数は東北日本海側で約 13 日、東北太平洋側で約 21 日です。

各予報期間の天候の特徴

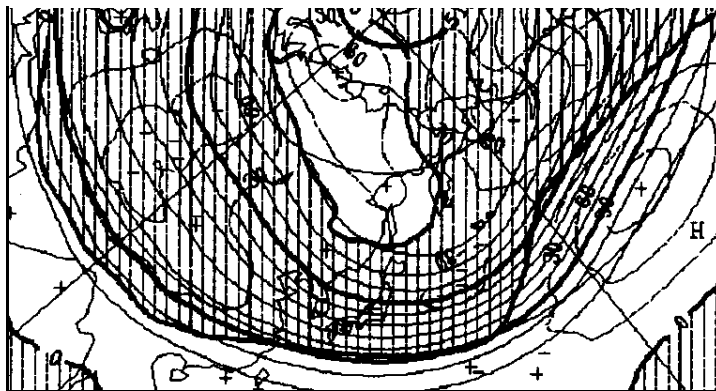
- 1 週目…………… 向こう一週間は、期間の始めと終わりに気圧の谷が通り、谷の通過（2 月 19 日～2 月 25 日）後は冬型の気圧配置が強まる見込みです。東北日本海側や東北太平洋側の山沿いでは雪か雨の日が多く、太平洋側の沿岸では、天気は周期的に変わる見込みです。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 2 日、東北太平洋側で約 5 日です。
- 2 週目…………… 冬型の気圧配置の日が多いでしょう。一時強い寒気が入る見込みで（2 月 26 日～3 月 3 日）す。平年同様、東北日本海側は曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 3 日、東北太平洋側で約 5 日です。

3～4 週目…………… 気圧の谷が周期的に通る、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置(3月4日～3月17日)になるでしょう。東北日本海側は平年同様曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は平年同様晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約7日、東北太平洋側で約10日です。

予想される天候に関する循環場の特徴(アンサンブル平均天気図)



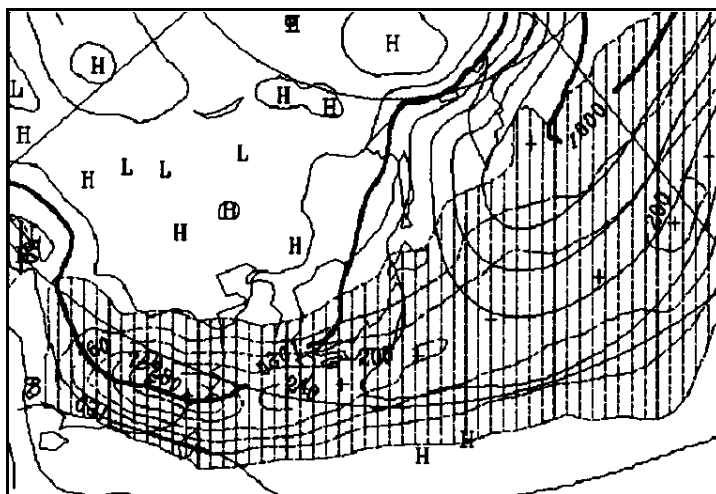
月平均の 500hPa 高度・偏差

(等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近の東海上から大陸にかけて負偏差に覆われている。日本付近は弱い気圧の谷で、寒気が流れ込みやすい場となる。

週別(図略)では、2 週目に日本付近が負偏差で、日本の東側が気圧の谷になっており、一時的に強い寒気の入る日もある見込み。3～4 週目には日本付近は広く弱い正偏差に覆われる。



月平均の地上気圧と降水量

(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

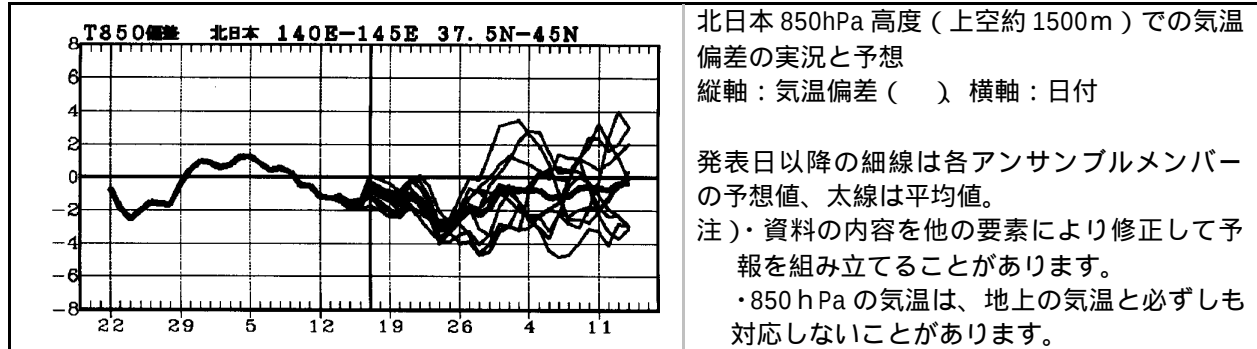
・ 地上気圧と降水量

月平均でみると、西高東低の冬型の気圧配置を示すが、等圧線の間隔は日本付近で広く、冬型は弱い。また、日本の南には降水域が東西に広がり、本州南岸沿いで比較的明瞭であるが、東北地方への影響は小さい。

週別(図略)では、1 週目、2 週目は、冬型の気圧配置となる。特に1 週目は月平均に比べ等圧線の間隔は狭く、冬型が強い。

3．北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温偏差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、期間を通して負偏差で、2 週目の始めにかけて低極になり、その後平年並に近づくが、後半はバラツキが大きい。ただし最近の実況では、東北地方の地上気温偏差は、北日本 850hPa の気温偏差に比べて 1～2 度高めに推移している。

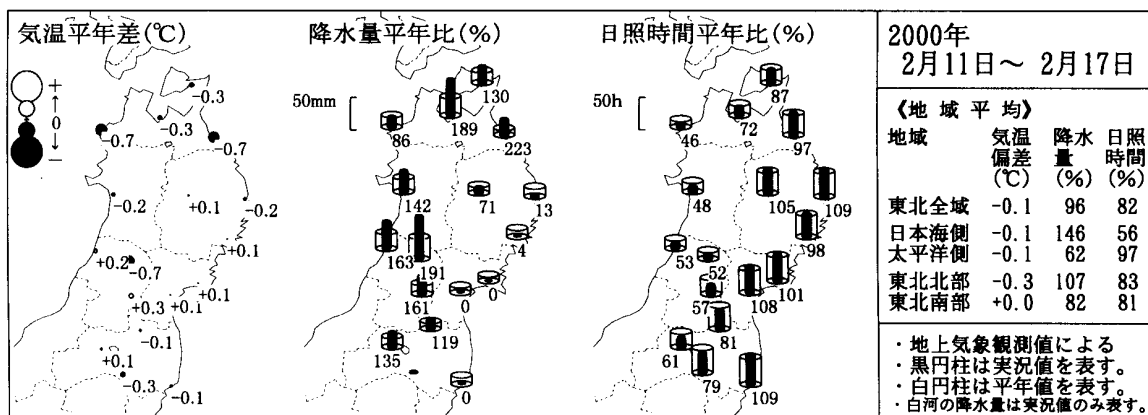


注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4．最近 1 週間（2 月 11 日～2 月 17 日）の天候の経過

この期間、14～15 日にかけて気圧の谷が通過した他は、冬型の気圧配置の日が続き、東北日本海側では曇りや雪の日が続いた。東北太平洋側では晴れの日が多かったが、15～16 日にかけては強い寒気の影響で雪のところが多かった。

平均気温は、東北地方で平年差 -0.1℃と平年を下回った。降水量は、東北日本海側で平年比 146%と平年を上回り、東北太平洋側では平年比 62%と平年を下回った。日照時間は、東北日本海側で平年比 56%、東北太平洋側で平年比 97%とともに平年を下回った。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）